

① 平成生まれの君たちは知っているでしょうか。戦後の建設物資が十分でなかった時代、建築家たちは小さいながらも新しい生活を目指し、豊かな空間をつくろうとしました。1945年から1960年までの15年間は、いわば小住宅の理論と実践の時代でした。こうした社会的背景から、1940年代後半頃には建築専門誌を中心に家族を対象にした50m² (15坪)前後の小住宅コンペが盛んに催されました。1958年に竣工した菊竹清訓が設計した『スカイハウス』は、社会を構成する最小単位としての夫婦から家族の成長に合わせ新陳代謝する建築でした。しかし、1960年代のわが国の高度経済成長期を経て、核家族化へと世帯の細分化、家族の解体が始まり、今では新たな家族のかたちが模索されています。近年の調査によると東京都心では若年層から老年層の世代を超えた単身者世帯が60%を超えているところもあります。こうした状況から「お一人さま」という生活基盤が社会に定着する一方、新型コロナ禍により分断された個人は人とつながりを求めていることもわかりました。🔗

第35回

日本工業大学建築設計競技

Nippon Institute of Technology Architectural Design Competition

テーマ

3軒のお一人さまハウス

Three houses for three single persons

② そこで課題では、現代における単身者「お一人さまの住まいを構想してください。一般的な住まいは、夫婦や家族など複数の他者との関係性をデザインすることに他なりません。自由度の高い空間になる住まいは、かなり自由度の高い空間になるはず。言い換えると住まいの様々なルールを超えた空間であり、また孤と対峙する空間でもあります。人はそこに内なる（宇宙）を見出すかもしれません。光や風や雨や音などの自然や植物など環境要素を採り入れた外とのつながりのある、小さくても豊かな空間を創造してください。🔗

審査委員 | 石田敏明 [建築家/石田敏明建築設計事務所主宰]

小川次郎 [日本工業大学建築学部教授]

足立真 [日本工業大学建築学部教授]

石田敏明 | 1950年広島県生まれ。1973年広島工業大学工学部建築学科卒業。1973-81年伊東豊雄建築設計事務所を経て、1982年石田敏明建築設計事務所設立。1997-2016年前橋工科大学工学部建築学科教授。2016-2021年神奈川大学工学部建築学科教授。主な受賞作品に、1991年SDレビュー鹿島賞「Aプロジェクト」、1992年住宅建築賞金賞「網島の家」、1993年住宅建築賞審査員特別賞「富士裾野の山荘」、1996年JIA新人賞「NOS-h」、吉岡賞「F4」、1999年JCDデザイン大賞「小淵ネーム刺繍店」など。主な著書に、「建築と私」、「まちを生きる家」など。

③ 想定する敷地に3軒(3人)の戸建ての「お一人さまハウス」を計画してください。3軒全体の敷地面積は180m²(建蔽率40%,容積率80%)程度、また各住戸の床面積は40m²程度とします。個々のデザインはもとより、3軒(3人)の関係性とスキマのデザインにも配慮が必要です。 <http://nit-kenchiku.jp/activities/>

[設計条件]

- 「3軒のお一人さまハウス」として工夫した点を具体的に示すこと。
- 設計する住宅の周囲の状況がわかるように表現すること。
- 敷地や建物の規模は自由。住むための用途であること。
- どのような人が、どのように使うのか、わかるように表現すること。

[提出図面]

- A1 版用紙1枚(841mm×594mm縦使い)にレイアウトする。
コピー、CADの使用などは自由。
- 配置図:1/100 敷地周辺との関係を表現すること。
ただし、1階平面図と兼用する場合は1/50とする。
- 各階平面図:1/50 1面以上とする。敷地内の外部空間も設計すること。
- 断面図、立面図:1/50または1/100 それぞれ1面以上とする。
- 透視図または模型写真を少なくとも1点入れること。
- 提案に応じて図面の縮尺を変えてもよい。
- 図面はパネル化不可とする。

[応募要領]

- 応募資格:原則として応募時に高等学校の建築科、またはこれに準ずる学科に在籍しているもの。
共同作品の場合は、3名までのグループとする。
また、同一人の応募は、2作品までとする。
- 質疑応答:応募要項にないものは、すべて応募者の判断によるものとし、質疑応答は行わない。
- 提出期限:2021年8月31日
提出はすべて郵送とし、当日の消印のあるものまでを有効とする。
- 提出先:
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 日本工業大学 入試室
電話番号:0480-33-7676
- 提出方法:同一人が複数応募する場合および同一学校から複数提出する場合は、応募作品をまとめて郵送する。
郵送物のわかりやすい箇所に「設計競技応募作品在中」と朱書きする。
- 応募用紙:提出図面には、応募者の所属学校名、氏名等は一切記入してはならない。
応募用紙をコピーの上、氏名等を記入し、応募作品ごとに提出図面の裏面に貼る。

[応募作品の受取]

- 指導教員に対して応募作品の受取確認をメールまたはFAXで行う。
- 受取確認は提出期限後、1週間程度以内に行う。

[審査]

- 審査委員:
石田敏明[建築家/石田敏明建築設計事務所主宰]
小川次郎[日本工業大学建築学部教授]
足立真[日本工業大学建築学部教授]
- 入賞発表:2021年9月中旬ホームページ上にて発表。
- 授賞式:
2021年10月31日、本学において行う。
出席する入賞者および指導教員の交通費は、本学で負担する。
当日は、審査委員のスライド・レクチャーと講評が行われる。
- 作品展示:入賞作品は、授賞式の際に本学LCセンターにて展示する。

[賞について]

下記に対して、賞状及び賞品を贈呈する。

- 一等—1点/賞品:図書券(10万円相当)/副賞:10万円
- 二等—1点/賞品:図書券(5万円相当)/副賞:5万円
- 三等—1点/賞品:図書券(3万円相当)/副賞:3万円
- 佳作—10点前後/賞品:図書券(1万円相当)
- 副賞は、応募者の在籍する学校に指導費・研究費として贈られる。
- 応募者全員に入賞作品集が贈られる。

[図面の返却]

- 応募作品は入賞作品を除き、提出図面のみを発表後2ヶ月以内に返却する。
- 入賞作品は返却しないので、必要に応じてあらかじめコピーをとっておくこと。
また、梱包用の筒等は返却しない。

[出版・展示]

- 入賞作品の公開(展示・出版)は、本学の判断で行う。
- 入賞作品は、印刷物として刊行する。

[ホームページアドレス/メールアドレス]

HP=<http://nit-kenchiku.jp/activities/>(過去の入賞作品が掲載されています。)
E-mail=kenchiku-compe@nit.ac.jp

裏のりしろ
(応募用紙を貼る際、この枠の裏側をのりしろにして下さい)

[第35回]

日本工業大学 建築設計競技 応募用紙

課題「3軒のお一人さまハウス」

- 応募作品ごとに、この用紙をコピーして使用し、のりやテープ等で図面の裏面に貼る。
- 共同作品の場合には、
 - 欄に代表者名を記入すること。
- 応募用紙には、楷書で記入すること。
- 応募用紙と図面の作品タイトルに食い違いがある場合、図面を優先します。

整理番号
(記入する必要なし)

作品タイトル			
高等学校名 [正式名]	高等学校		
学校住所	〒 — 都道府県	-----	
	電話番号	-----	
	FAX	-----	
指導教員名	-----		
	メールアドレス		
生徒氏名 学科・学年	フリガナ		科 年
	○		
	フリガナ		科 年
	フリガナ		科 年